の生き方に迫る社会科の指導」はいかに在るべきかについての研究を進める。

Ⅲ 研究の内容

1 研究主題に対する基本的な考え方

(1) 「児童生徒の生き方に迫る」について

研究主題である「児童生徒自らの生き方に迫る」とは，社会科の授業を通して，次のようなことから人間の生き方を学び取ることであると考える。

○ 社会生活の進展につくしてきた，あるいは社会を支えてきた人間の働き，社会の営みのもつ価値（すばらしさ，工夫等）

○ よりよい社会を築こうとする力（工夫，努力）

○ 自ら学び，考え，社会の変化に対応していける力（主体性，判断力）

そのためには，児童生徒自らの生き方に迫る社会科学習指導の到達目標として，児童生徒が，観察，調査，資料活用の活動を通して課題を解決し，人間の生き方を知るとともに，自分の生き方と対比してよりよい生き方を考える態度を育てることにあるととらえ，「社会科学習指導の在り方」を探っていくことが大切であると考える。

(2) 研究主題に迫るために

ア 問題解決的な学習過程の工夫

児童生徒が，自ら問題を見つけ，社会的事象に進んでかかわりながら，自ら考えたり判断したり，あるいは体験したり，表現したりする活動を中心に授業を構成していくことが，問題解決の能力や態度を育てていく上で大切である。

自らの問題を意欲的に解決できるようにするためには，学習活動の方法や教材を選択したり決定したりできるような学習の展開を計画し，支援していくことも必要となる。

そのためには，自らが意欲をもって問題を見つけ，主体的に解決していくことのできるような学習過程が重要である。「問題をつかむ→調べる→まとめる」という問題解決の学習過程も，固定的にとらえず，学習状況や教材に応じて弾力的に考えていくことが大切である。

一人一人が，自分の学習として自分なりの問題意識をもち，調べだすことができるようになるには，次のような点を指導の重点として取り組む必要がある。

○ 社会的事象を自分自身や自分の生活とのかかわりから調べ，様々な疑問や問題意識をもって，社会的事象の意味を明らかにしようとする意欲が高まるようにすること

○ 問題を見つける過程で，事実を読み取る活動，資料に基づいて表現する活動，社会的事象と自分とのかかわりに気付く活動を重視すること

このような活動を通して，様々な疑問を出し合い，相互に啓発し合うことにより，自分の問題として意識することができるようになる。そして，自分なりの学習の内容と方法で問題を解決しようとする意欲と学習の見通しがもてるようになる。

イ 体験的な学習活動の工夫

新しい学力観に立つ社会科指導を進めるには，体験的な学習活動を重視した学習指導を展開していくことが重要である。観察，調査，見学，製作，作品にまとめる活動などの体験的な学習活動に主体的に取り組むこと自体が，自らを豊かに成長させていく重要なプロ

セスであり，学習活動そのものに価値を認めることができる。一人一人にとっては，活動することが学習の方法であると同時に学習内容そのものである。体験的な学習活動のよさは，次のようになる。

○　知識を教え込む教師主導の授業から，意欲的に取り組む児童生徒中心の学習への転換が図られる。

○　体験的な学習活動を通して，自分自身のよさや可能性を発揮して，知識を自分なりに獲得していくことができるようになる。

○　様々な体験的な学習活動を通して，地域社会や生活に根ざした社会科の学習を展開でき，人間の生活の知恵や生き方を学ぶことができるようになる。

○　学習が楽しいものとなり，成就感や分かる喜びを味わい，進んで社会的事象とかかわることができるようになる。

体験的な学習活動を学習過程に組み入れるに当たっては，学習過程の段階とその目的を明確に押さえる必要がある。学習問題を設定する段階では，様々な疑問や感想を出し合ったり，不十分さや問題点などに気付いたりしながら自分の問題を見いだし，その後の学習に対する関心・意欲を高めることができる。学習問題を調べ解決していく段階では，新たな社会的事象に接し，事実認識を深めたり，自分の思いや気持ちを発揮したり，さらに，様々な人間の願いや生き方を学んだりしながら，自分の疑問や予想が確かめられ，学習問題の解決を図っていくことができる。学習のまとめの段階では，学習のねらいとしているものを自分なりに最終的に獲得し，定着を図ることができる。

2　研究主題にかかわる意識・実態調査

(1)　調査実施の趣旨及び方法

本研究の主題に迫るために本県の中学校の社会科担当教員及び生徒を対象に，社会科学習に関する両者の意識のずれ等の実態を把握し，社会科学習指導の諸問題を明らかにするとともに，授業の改善の方向を探る。

○　実施期日　・平成５年１月８日～16日

○　対象　　・県内の中学校社会科担当教員　60人

　　・県内の中学校生徒　1,030人

○　方法　　・質問紙法によるアンケート

(2)　調 査 内 容

・学習意欲に関すること

・評価に関すること

・社会観・人生観について

・生徒が生き生きする社会科授業について

(3)　集計結果と分析（複数回答，数字は回答数の割合，一部抜粋）

調査のねらいは，主に教員と生徒との意識のずれから指導上の問題点を探るものである。各質問に対する回答からは，そのずれをみることができる。特に，質問１の学習意欲に関する事項については，「学習に意欲的に取り組んでいない。」と考えている教員がわずかに3.3%であるのに対し，生徒の20.8%が，「学習が楽しくない。」と答えている。